



下山院長による新年の挨拶



新年あけましておめでとうございます。
2023年（令和5年）の年頭にあたり、ご挨拶させていただきます。

昨年もまた新型コロナウイルス感染に振り回された1年でした。当院でも病棟内においてクラスターが発生し、年末まで対応に追われていました。新型コロナウイルス感染はまだまだ収束する気配もなく、世の中は「ウイズコロナ」の体制となり、いつどこで感染するか分からない状況ですが、病院においてはまだ「ゼロコロナ」を要求されており、そのギャップに対応できていないのが現状です。

当院でも感染拡大を防ぐため感染予防対策を図りながら、予防接種、発熱外来の開設などや院内発生の子の治療など行っています。

皆様も引き続きご自身の体調管理、健康管理に留意していただき、何か不安なことがあれば是非当院をご利用ください。今年もすぐにはコロナウイルス感染が落ちつかず影響が及ぶと思われませんが、徹底した感染防止対策に努めながら、今まで以上に利用しやすい地域の病院を目指していきたいと考えています。これからも皆様には当院を利用していただき、ご意見やご要望がございましたら是非お聞かせください。本年も当院を引き続きよろしくお願ひします。

当院では土曜日も終日外来診療を行っております。ご利用ください。

CTよりMRIの方が精密なのですか？

CTとMRIは、どちらも体の内部を画像にして確認する検査です。

CT検査は放射線を使用し、MRI検査は磁力を使用して撮影を行います。どちらの検査が優れているか、精密であるか、ということはなくそれぞれに長所や短所、得意な検査部位や疾患があります。

表 CT検査とMR検査の比較

	CT検査	MRI検査
仕組み	X線	磁石
体への負担	少しある（被曝）	ほとんどない
検査時間	短時間 （約5～15分）	時間がかかる （約30分～1時間）
検査時のつらさ	騒音、閉塞感はない	騒音、閉塞感がある
その他	体内に金属があっても検査できる※	体内に金属があると検査できない※

※ 人工関節、人工内耳、ペースメーカーなど

CTの得意な検査

頭部CT：頭蓋骨の骨折や、脳出血などの診断に有用です。

胸部CT：一般レントゲンには映らない小さな癌や炎症、大動脈の状態や心臓血管の石灰化などの診断に有用です。

腹部CT：主に肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓・脾臓の病変、
下腹部では大腸や膀胱の病変の発見などに有用です。

MRIの得意な検査

頭部MRI：脳梗塞、脳腫瘍、脳動脈瘤の発見に有用です。

腹部MRI：胆道系、胆嚢の腫瘍や膵臓の病変の発見に有用です。

下腹部MRI：前立腺肥大や前立腺がん、子宮筋腫・卵巣嚢腫の発見に有用です。

